

令和4年度 第1回外国人指導研究部研修会

令和4年6月1日(水)

於:浜松市立大平台小学校 体育館

研究主題

子どもを見つめ、多文化共生社会で一人一人の学ぶ力を高める指導  
～日本人児童生徒との温かな関わりを基盤にした在籍学級での学びを目指して～

1 顧問校長挨拶 (芳川北小学校 櫻井 敬子 校長)



2 部長挨拶 (大平台小学校 新村 朋子 教諭)

### 3 講話

#### 「高等学校における外国につながる生徒の現状と課題から見えてくる 小中学校での指導のあり方」

- ① 講師 静岡県立浜松大平台高等学校 定時制国語科非常勤講師 絹村 和美 氏（動画）



- 小・中学校において特別の教育課程で支援を受けてきた生徒については、資料が高校には届かないため（管轄が小中学校とは違う）、把握できません。今後、高校での特別な教育課程が始まるので、変わっていくのかもしれませんが。
- 外国につながる生徒たちの日本語力は、語彙が少ないです。日本語の世界は学校に限られ、家庭で読む本は母語の場合が多いです。そのため、生活言語はできていても、学習言語に課題があります。
- 日本語指導の流れは、まずは日本語力チェックをします。その後、本人と結果を確認し、本人が望むのであれば日本語の授業を受けます。日本語力が低い場合には、授業を受けるよう勧めるようにしています。
- 高等学校に入学するまでに身に付けておいてほしいことは、高校に入るための日本語力ではなく、高校に入ってからでも授業に参加できる日本語力です。「外国人だから…」を逃げ道にせず、少しずつステップを踏んで前向きに学習に取り組み、先を考える力も身に付けてほしいです。漢字についていえば、小学校 2 年生までに習う200字では授業についていけないので、それ以上の漢字を覚えてきてほしいです。
- 高等学校卒業後の進路については、生徒たちから聞いたことを担任につなげて、相談して進路を考えるように支援しています。

② 講師 浜松市教育委員会 古橋水無 指導主事



- 日本人生徒に比べ、外国につながる生徒のほうが、定時制高校に進学する割合がかなり高いです。
  
- 編入後3年で、在籍学級で自律した学習ができるように、学習支援をしてほしいです。取り出し指導は双方向のコミュニケーション、在籍学級での授業は多人数のために一方向のコミュニケーションが多くなります。そこで、取り出し指導では、在籍学級の授業に参加できるような足場がけをしてほしいです。在籍学級と同じ指導内容になりますが、その児童生徒が理解できそうな部分に絞るなど、実態に応じた指導をしてください。また、大切なことは、学び方を教えることであり、子どもが自分で考える時間をとることです。支援しすぎたり、全て説明してしまったりすると、自分で考えなくなってしまいます。
  
- 学級担任と教科指導の先生にお願いします。全体指導、次に個別指導、その次にやさしい日本語で指導すると、分かりやすいうえに、簡単な語彙だけでなく教科の語彙も学べます。また、日本語力が低くても、課題・学習活動の認知的レベルは下げないでください。他にも、児童生徒の聞き返しができるようにしたり、ポイントを絞って教えたりすると、前向きに学習するようになっていきます。  
宿題についてですが、その児童生徒が毎日少しずつでも続けていくことが大切です。もし、宿題を出さない児童生徒がいたら、書き取りの字数を少なくする、本読みのページを限定する、学年よりも易しいレベルのプリントを用意するなど、工夫することが大切です。